

事例6

事業名 子育てを応援する担い手育成 事業

課題

子育て層が孤立しがちになっており、不安や負担感をかかえている。これを解消し、「世代を越えて、地域で子育てを行えるまち」西淀川区を実現したい。

効果

区役所に子育て中の親子の交流の場を設け、子育て支援講座や子育て支援情報を提供するとともに、出前講座を通じて世代を越えた子育て支援者を育成することで、子育て層の不安を解消し、地域で子育てを行えるまち西淀川区の実現につなげていくことができます。

協働のパートナー

☆経費の形態☆委託

NPO法人にしよどにこネット

地域で生活する親子や子育て支援に関わる人でネットワークを構築し、コミュニティを活性化することで、人がいきいきとし親子の笑顔があふれるような「子育てしやすいまち」を形成することを目的としています。

西淀川区役所 子育て支援室

西淀川区における子育て支援策を推進することで、子育てしやすいまちをつくとともに、地域コミュニティを活性化し、安心して暮らせるまちづくりを目指しています。

事業の概要

孤立しがちな子育て層の不安・負担感を解消する機会や世代を越えて子育てを支援するボランティアの育成が必要となっていることを踏まえ、親子や子育て支援者の交流の場として、区役所食堂跡に「に～よんステーション」を設置しました。

この場所を活用して、「子育て支援講座」を行い、その中で虐待の早期発見につながるよう「児童虐待予防」の講座を開催。平成23年度は28回を超え、「に～よんステーション」への参加者数は延べ5,000人以上となっています。

また、地域での子育て支援者育成の観点から、各地域の子育てサロンなどへ出向く出前講座によるフォローアップも約15回実施しました。

情報の提供として、タイムリーな子育て支援に関する情報や子育て層からの生の声を伝える「情報紙クー」隔月で発行しました。（発行部数2,000部）



協働のパートナーとの出会い

☆大阪市から!

西淀川区役所が公募で事業企画案を募集し、応募のあった事業から選定しました。

プロセス

① 募集要項の作成	★区の子育て支援策の拡充の必要性和区役所食堂跡の有効活用の視点から、区役所を拠点にNPOと協働で取り組める子育て支援策を検討し、募集要項で事業企画案を募集しました。	P
② 事業企画案募集		
③ 事業の選定		
④ 区役所施設改修の協議・調整	♡ ◎子育て中の親子が使いやすい場所となるよう両者で話し合いました。	D
⑤ 企画の協議・調整	♡ ◎事業の目的や内容を明確にして共有し、効果的な取組みになるよう両者で話し合いました。	
⑥ 子育て支援講座の実施	◎実施する中で、取組みを地域へ広げていくことの重要性を共に理解し、共有することができました。	
⑦ 地域への出前講座の開催	◎講座内容を両者で話し合い工夫を重ねたことで、地域で積極的に活用してもらえる講座を実施することができました。	C A
⑧ 次年度に向けた取組み	♡ ◎世代を越えて区の地域全体で取組めるような新しい施策について両者で検討しました。	

※役割分担：☆協働のパートナー ★大阪市 ◎両者

♡ は、協働のポイントです。

協働で実施する理由！

子育て中の親子や子育て支援者への支援のスキルを持っている「NPO法人にしよどにこネット」と協働することで、行政だけでは担えない子育て中の親子への日常的な関わりや見守りを行うことができ、ネットワークを構築していくことで、区・NPO及び地域全体で課題を共有し、ニーズに即した支援、適切な対応を行うことができます。

ここがよかった！～実践者の声～

- ・同役所内にあり、気がかりな親子を支援室にスムーズにつないでもらえたことで、円滑に相談や手続きにつなぐことができ、有効な支援ができました。
- ・同建物内に居ることで、対応を苦慮する親子についての相談を気軽に抱え込まず相談を受け、支援室としてもスムーズに助言できました。
- ・経過を見守る家庭の日常の様子など、に～よんへの利用を通して情報提供してもらえ確認することが可能となりました。
- ・同役所内の利点により、利用者の様子や会場内の設営状況など機会あるごとに目にすることができ意見交換し内容充実をはかることができました。

